

天気が良く空気が澄んだ日には、坤櫓前の富士見芝生広場から、雄大な世界遺産の富士山を一望出来ます。



坤櫓

ひつじさる

やぐら

駿府城二ノ丸

天下統一を果たした徳川家康公は、征夷大將軍の職を2代秀忠公に譲り、慶長十二年（1607年）、大御所として江戸から駿府に移り住みました。天下普請として諸大名に命じた慶長の築城で、五層七階の天守を造営し、三重の堀を巡らせた駿府城を築きました。この天守は寛永十二年（1635年）に火事で焼失し、その後再建されませんでした。家康公は「江戸」の將軍に対して「駿府」の大御所として実権を掌握しつづけ、幕府の制度作りに努めました。

坤櫓は、駿府城二ノ丸の南西の角に位置する櫓です。江戸時代は方位に干支を用いており、南西の方角を坤（ひつじさる）と呼びました。安政元年（1854年）の安政大地震で崩壊したため、160年ぶりの復元となりました。内部から二層三階建構造を見通すことが出来ます。（平成26年4月より公開）

■建物の概要

- ・工事期間：平成23年12月から平成25年12月まで
- ・建物の規模：縦横七間四方、高さ七間（約14m）
- ・構造：木造軸組構造二層三階（建築基準法では木造2階建）
- ・屋根：本瓦葺入母屋造
- ・外壁：小舞土塗壁漆喰塗
- ・建築面積：253.57㎡、延床面積391.08㎡

■入館のご案内

開館時間：9時～16時30分（入館は16時まで）
休館日：月曜日（祝日に当たる場合は開館）年末年始（12/29～1/3）
入館料 大人：100円 小人（小・中学生）：50円
※静岡市在住で70歳以上の方は証明書の提示で無料入場できます

■今昔スコープ体験について

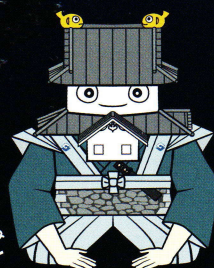
現実とバーチャルが融合した日本初の異次元体感型アトラクションです
体験料：500円 ※対象は小学生以上となります

■交通のご案内

- ・JR 静岡駅より徒歩16分 ・静岡鉄道新静岡駅から徒歩11分
- ・駐車場はございません。公園周辺の駐車場をご利用ください

■お問い合わせ先

〒420-0855 静岡市葵区駿府城公園 1-1
公益財団法人 静岡市まちづくり公社
駿府城公園坤櫓管理事務所 ☎ 054-266-7205
静岡市公園整備課 ☎ 054-221-1121
<http://sumpu-hitsujisaru.com>



坤櫓を
よろしくね

駿府城のしるし
©よしむら たかふみ

※坤櫓の瓦、坤櫓周辺と二ノ丸御門跡周辺の石垣に(ハートマーク)があります。探してみたいかですか？

駿府城 坤櫓の攻略法

大御所家康公の甲冑を身に着け、家康公になりきって見まわせんか。

櫓周辺の発掘調査で見えられた瓦などの実物を展示します。坤櫓の収蔵品を記した資料もあわせて紹介します。

坤櫓復元工事の様子や、駿府と家康公の歴史を映像で紹介いたします。

- 一、入場券を購入し櫓に入館。
- 二、「手解きの間」で櫓を学ぼう。櫓の床下天井を見上げて、力強い構造を見てみよう。
- 三、「記憶の間」で天下人の家康公になりきろう。
- 四、「変幻の間」にて異体験を！
- 五、「見渡しの間」で雄大な富士山を眺め、天下人の気分を味わってみよう。

さらに「時空の間」にて異体験を！

※「今昔スコop」は、限定のチケットです。坤櫓は、期間限定の施設ではありません。入館者が落ち着いたら、是非ゆっくり体験してください。

時空の間

「今昔スコop」駿府時空鏡「定」のそと「こ」と「こ」には不思議な景色が。これは現代なのかそれとも江戸時代なのか、不思議な世界感を体験してみませんか。（別途、体験料が必要です）

記憶の間



坤櫓内部では、Free Wi-Fiをご利用できます。【DoSPOT-FREE】に接続してご利用ください。静岡の歴史は、<http://city.shizuoka-bunkazai.jp/>でもご覧いただけます。お手持ちのスマートフォンなどでご覧ください。



駿府城公園周辺案内

静岡浅間神社

静岡浅間神社は「神部神社」「浅間神社」「大歳御祖神社」の総称です。静岡浅間神社は、駿河国の総社として歴代幕府の崇拝を受け、竹千代（家康の幼名）が元服を行ったことから特に徳川家は厚く保護しました。現在の社殿は1804年から60年の歳月をかけて再建され、漆塗り極彩色を施しています。社殿26棟の全てが国の重要文化財に指定されています。

静岡由来の碑

明治2年廃藩置県を前にして、地名の改称が藩庁で協議されました。重臣の間では駿機山の青葉ヶ丘にちなみ、賤ヶ丘と決まっていたが、静岡学園所頭取・向山黄村先生が「時世と土地柄」を考えて「静岡」がよいと提案された。たちまち一決したといひます。

静岡県庁別館21階展望ロビー

駿府城公園や富士山・駿河湾・南アルプスが一望できます。夜景もオススメ!!
時間/4~12月(1~3月までは短縮)
平日/8:30~20:00/休日 10:00~20:00
定休日/毎月第3土曜日とその翌日の日曜日
施設料金/無料

弥次喜多像

「東海道中膝栗毛」の作者、十返舎一九は駿府町奉行の息子であったが、家督を継がず、江戸で戯作者となりました。東海道中膝栗毛は、江戸に住む駿府出身の弥次郎兵衛と江戸出身のひょうきん者の喜多八が滑稽な旅を続ける道中話で、当時の人々に爆発的な人気を呼び、長期にわたりベストセラーとなりました。

西郷・山岡会見の碑

慶応4年3月東進中の官軍の大総督参謀・西郷隆盛と幕府の命を受けた山岡鉄舟が会見した場所とされています。この会見によって、江戸城の無血開城がなされ、日本の内乱が避けられた明治維新史上、最も重要な場所です。

徳川慶喜邸跡(浮月楼)

徳川最後の将軍・徳川慶喜公は、大政奉還後、駿府に移り住み、ここ代官所跡で約20年間過ごされました。庭園は平安神宮を手がけた京都の庭師・小川治兵衛の作で、現在も当時の趣を残しています。